

序章 「食すること」と「旅すること」 神崎宣武……………9

第1部 ひもじさがつきまとう旅で

第1章 イヌイットにみる狩猟行と食の風景 街道憲久……………16

- I 極北の民イヌイット 16
狩猟の知恵と技術／北極圏の自然環境
- II カナダ北極圏の変遷 20
穏やかな接触と変化／混乱する極北の町／野に戻った狩人
- III 豊かな極北の食風景 24
夏のキャンプ／男は狩り、女は家事／一日四回の食事／
食の作法／助け合いと奢り合い
- IV 極北の料理と狩猟行 33
食材と加工／狩猟行と旅

第2章 中国明代の旅行家徐霞客の旅と飲食 渡部 武……………38

- はじめに 38
- I 中国近世の交通・宿泊事情と旅装 42
- II 『遊記』に記された西南中国各地の飲食文化事情 47
湖南から貴州にかけての食文化体験／雲南での食文化体験
- むすび 59

第3章 時宗の遊行上人の旅と食 梅谷繁樹……………61

- はじめに 61
- I 『一遍聖絵』と『遊行上人縁起絵』 62
- II 遊行の人数 63
- III 遊行と食の風景 65
- IV 日常の食 70
- V ハレの食 74
- おわりに 79

長編コラム

飯炊きムーサの航海 岡村 隆……………82

——モルディブ諸島交易船の船上食

モンズーンの海で／交易船を支える暮らし／半自給自足の船旅／

鮮やかな魚料理の手際／ドラム缶カマドの活用法／
空と海と島々の恵み／あこがれの都マール

第Ⅱ部 宿や茶店がたどれる旅で

第1章 グランド・ツアーの食と旅 本城靖久……………104

- I グランド・ツアーの背景 104
一八世紀という時代／貴族の若様の遊学の旅／当時の旅の状況
- II 日常の食生活——イギリス・フランス・イタリア 109
- III 旅先での食事情 115
- おわりに 124

第2章 伊勢参宮における道中食 石井正己……………128

- I 女性・絵画と伊勢参宮 128
- II 「道中食」の概念と宿屋の食事 131
- III 移動中の昼食と間食 135
- IV 「道中記」と食事の記述 137

第3章 遊廓登楼と飲食 佐伯順子……………149

——浮世草子を中心として

- I 遊廓の食の設備 150
- II 珍味に彩られた酒宴——非日常的な食 153
- III 季節感と行事食 157
- IV 蕩尽としての食——ポトラッチ的な食 160
- V 恋の小道具として 162
- VI 遊女にとっての食——「納戸食」の実態と、
遊廓の食をめぐるジェンダーの問題 164
- VII 食欲と性欲 169

第Ⅲ部 食が享楽となる旅で

第1章 鉄道の旅と駅弁 高田公理……………174

- はじめに——駅弁大国・日本 174
- I 鉄道の開通と駅弁の発売 175
- II 普通弁当と特殊弁当 177
- III 駅弁の日本の特殊性 179
- 食事のモバイル性／ピッキング&パッキング／ゆたかなローカル性
- IV 世相を映しだす駅弁たち 186
- おわりに——現代日本の生活と弁当 193

第2章 メディア情報とグルメ紀行 足田正博……………198

- I 旅と情報 198
- 旅行商品のパンフレット／旅行の情報はどこから／旅行に関するメディア
- II グルメ情報 202
- ミシュランの『レッド・ガイド』／グルメ情報誌／グルメ番組
- III 京都・グルメ紀行の事例として 207

旅先としての京都／メディア情報のなかでの京都の料亭／
グルメ紀行情報の今後

特別寄稿 グレートジャーニーでの食体験 関野吉晴……………215

パタゴニア／アンデス／ペルー・アマゾン／ヤノマミ／
極北の狩猟民／極東シベリア／極東シベリア内陸部／
モンゴル／チベット・ヒマラヤ／エチオピア／塩の交易

総括 旅の発達、食事の充実 神崎宣武……………241

- はじめに 241
- I 宿ありても自炊に励む 242
- II 宿に泊まりての内食と外食 246
- III 茶屋にては名物と酒 253
- おわりに 263

あとがき 神崎宣武……………270

執筆者紹介

277